

## 第2章 まちづくりの考え方と課題

### 1 関連計画におけるまちづくりの考え方

#### (1) 関連計画における市街地整備に関する内容

##### 1) 新発田市まちづくり総合計画\* [計画期間：令和2～9年度]

新発田市まちづくり総合計画では、新発田市の市街地整備等に関して、以下の記載があります。

#### 《市街地の整備に関わる施策の展開（抜粋）》

##### [中心市街地活性化]

- 「札の辻広場」を活用した、賑わいの創出
- 商店街や民間団体との連携による中心市街地の賑わい創出
- 中心市街地の空き店舗への出店支援

##### [住宅・住環境]

- 防災対策の推進
- 住環境整備への支援
- U I J ターンの促進

##### [道路]

- 安全で快適な道路空間の整備と、骨格となる道路網の強化
- 道路の適正管理と長寿命化

##### [公共交通]

- 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
- 地域とともにづくり、支える、持続可能な公共交通
- まちの変化に応じた公共交通

##### [景観]

- 歴史的な街並みを活かした景観の形成と保全
- 城下町しばたの景観に配慮した水のみち地区周辺の街並み整備

##### [公園]

- 公園の特徴を活かした賑わいの創出と遊具等の長寿命化を目指した計画的な維持管理

## 2) しばた魅力創造戦略\* [令和2年度第2期計画策定]

しばた魅力創造戦略のまちづくりの基本目標の一つである「市民が主役のまちづくり」において、「まち」の基礎となる「地域」の基盤づくりに向けた施策を進めながら、「協働」、「産学官連携」、「ネットワーク」、「定住自立圏\*」に関する取り組みを戦略的に実施することで、新たな時代に対応した地域を創っていくこととして、以下の記載があります。

## 《市街地整備に関わる主な取り組み（抜粋）》

## [地域資源・魅力を活かした交流から定住へ Ⅲ 中心市街地の賑わい創出]

- 官民連携によるエリアマネジメントに取り組み、まちなかの活性化を推進します。
- 鉄道や周辺地区を運行するコミュニティバス等との接続を考慮した市街地循環バス運行ダイヤの設定や位置情報の発信、待合所の整備等により、公共交通の充実を図ります。
- 「歴史のみち」、「水のみち」、周辺エリアの道路の美装化や護岸整備等を進め、景観に配慮した街並みを形成します。

## [市民が主役のまちづくり Ⅲ 持続可能な地域づくり]

- 居住や医療・福祉・商業等の立地の適正化を図るとともに、中心拠点と周辺地区又は地区間の交通ネットワーク形成を推進します。
- 公共交通空白地域の減少と利便性の向上を図ります。

## 3) 新発田市都市計画マスタープラン\* [計画期間：令和2～9年度]

新発田市都市計画マスタープランでは、都市づくりにおける将来像を『安心安全で持続可能な魅力ある都市』として、以下の記載があります。

## 《まちづくりの現状と課題》

- ①人口減少社会への対応
- ②中心市街地を取り巻く環境の変化
- ③市民ニーズに対応した暮らしやすいまちの形成
- ④周辺自治体との連携によるまちづくりの推進
- ⑤新たな社会課題への対応

## 《都市づくりの将来像》

## &lt;安心安全で持続可能な魅力ある都市&gt;

- ①コンパクトで暮らしやすいまちづくり
- ②人口減少や高齢化を見据えた持続可能なまちづくり
- ③市民が安心安全に暮らすことのできるまちづくり
- ④地域資源を保全・活用したうるおいと魅力・活力のあるまちづくり

## 《将来都市構造\*（抜粋）》

### [都市拠点]

- ・市の中心となるべき地区として、「新発田市街地中心部」を都市拠点に位置付け。  
(条件)
  - 高次の都市機能や都市サービス機能が集積し利便性が高い。
  - 鉄道・バスが運行し、市内・市外からのアクセスに優れている。

また分野別の方針では、土地利用や交通体系、都市施設、都市環境の分野における現状と課題として以下の記載があります。

## 《分野別の方針における現状と課題（抜粋）》

### [土地利用]

- 低密な市街地の広がり
- 中心部の魅力の低下
- 狭あい道路や老朽家屋の密集
- 工業地と住宅地の混在
- 集落地の居住環境の維持
- 歴史・文化資源の保全・活用
- 多様な自然資源の保全

### [交通体系（道路）]

- 都市交通の円滑化
- 拠点間アクセスの強化
- 道路による都市の快適性・安全性確保
- 道路構造物や附属物の整備と維持管理
- 都市計画道路\*の整備

### [交通体系（公共交通）]

- 中心市街地への移動手段の確保
- 市街地内での移動手段の確保
- 周辺都市間での移動

### [都市施設（その他の都市施設）]

- 公共施設の計画的な配置と維持管理
- 超高齢社会に対応した都市施設の整備

### [都市環境]

- 災害への対応・都市の防災化
- 市民理解と「共創」のまちづくり

## 4) 新発田市中心市街地活性化基本計画\* [計画期間：平成25～31年度]

新発田市街地の新発田駅前から商店街及び周辺エリアを対象範囲とする、中心市街地活性化の総合的なまちづくり計画です。計画の課題として、以下の記載があります。

## 《中心市街地活性化の課題（抜粋）》

## [まちなか居住の推進]

- 高齢社会への対応として都市機能が集積する中心市街地の居住人口の増加を図るため、まちなか居住を推進するための整備が必要である。

## [賑わいの創出]

- 中心市街地への居住推進や賑わい創出を図るため、消費者・商業者にとって魅力ある商業環境の整備を行っていく必要がある。

## [歴史資源を活かした街なみの形成と誘客促進]

- 点在する歴史・文化資源を活かし、まちの魅力の向上と良好な都市景観の形成を図るため、歴史的な街なみの保全と整備に加え、魅力ある周遊ルートの造成など、ハード・ソフト事業の連携した取り組みが必要である。

## [商店街活性化支援の拡充]

- 商店街の活性化とは、個店の自助努力に基づく発展とともに、その集積を維持させていくことにある。そのため、個店を支え、新たな個店の出店を促すための支援の拡充が必要である。

## 5) 新発田市地域公共交通網形成計画\* [計画期間：平成29～令和5年度]

新発田市全域を対象範囲とし、『地域と地域をつなぎ、人が行き交う、暮らしやすいまち』を目指すべき将来像として掲げています。計画の課題として、以下の記載があります。

## 《地域公共交通に係る課題》

- 運転のできない高齢者、障がい者、学生等の日常生活の移動手段の確保
- 周辺地域と市街地中心部を結ぶ移動手段の確保
- 地域特性や移動ニーズに応じた公共交通の見直し
- 市街地中心部における移動手段の維持・向上
- 近隣市町との連携による地域の活性化
- 交通結節点における機能の向上
- 公共交通を利用しやすい環境整備
- 地域がつくり、支える公共交通の構築
- 公共交通の維持に向けた意識の醸成

## 6) 新発田市国土強靱化地域計画〔計画期間：令和2～6年度〕

新発田市国土強靱化地域計画は、どのような大規模自然災害等が起こっても機能不全に陥らず、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」をつくりあげるための計画であり、市の最上位計画である「新発田市まちづくり総合計画」との整合・調和を図りながら、「新発田市地域防災計画」などの分野別計画の指針となるものです。

地域特性や災害リスクを考慮し、想定する大規模自然災害に対し、事前に備えるべき目標として、以下の記載があります。

### 《基本目標》

- 1 人命の保護が最大限図られる。
- 2 市民の生活・地域・経済の機能が停滞しない
- 3 停滞しても速やかに回復できる社会システムの構築

### 《事前に備えるべき目標（抜粋）》

- 災害の直接的な要因から人命の保護が最大限図られる
- 救助・救急、医療活動が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する
- 必要不可欠な行政機能を確保する
- 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスを確保する
- 経済活動を機能不全に陥らせない
- ライフライン、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる
- 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない
- 社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

## (2) 関連計画におけるまちづくりの考え方

それぞれの関連計画における新発田市の将来を見すえたまちづくりにおける考え方として、「新発田市街地の拠点性向上」と「新発田市街地と周辺地区のネットワーク強化」、「都市経営の効率化」の3つの考え方をまちづくりの共通項として整理しました。

■表 2-1 関連計画におけるまちづくりの考え方

### ①新発田市街地の拠点性向上

医療・福祉・商業・官公庁等の施設の集積を維持し、既存の地域資源の活用をすすめ、拠点としての魅力を高めることにより、まちなか居住を誘導するとともに、商業の活性化・賑わいの創出を図る。

### ②新発田市街地と周辺地域のネットワーク強化

道路や公共交通の充実を目指し、周辺地域から都市機能の拠点である市中心部へのアクセス性の向上に努め、あわせて公共交通空白地域の改善等により公共交通利用時の利便性の向上を図る。

### ③都市経営の効率化

人口減少と少子高齢化への対応として、利便性と効率性を兼ね備えたコンパクトなまちづくりを目指し、適正な規模と財政状況にあった公共施設等の更新、集約化・複合化などを図る。

## 2 今後の都市づくりに向けた課題

これまでの現状分析や関連計画の内容などをふまえ、新発田市の都市づくりに向けた課題として、「生活利便性の維持・確保」「中心市街地の活性化」「都市生活基盤の整備充実」「市街地の安全性の向上」「都市経営の効率化」の5つに整理しました。

■表 2-2 都市づくりに向けた課題

課題	内容
① 生活利便性の維持・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新発田市民の生活を支える新発田市街地における生活サービス*機能の維持・充実 (生活サービス機能：医療・社会福祉・教育文化・商業・金融・行政等)</li> <li>○生活サービス機能の持続的確保のための一定程度の人口密度の維持</li> </ul>
② 中心市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちなか居住の推進や都市機能を維持するための施設の誘導による空洞化の解消</li> <li>○多様な都市機能と歴史的資源等の連携による魅力や活力の向上</li> <li>○新発田市街地中心部に集積する行政や教育・文化等の公共施設の有効活用</li> </ul>
③ 都市生活基盤の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新発田市街地をはじめとした下水道の早期整備の実現</li> <li>○都市基盤施設*の整備効果を最大限に活用した都市活力の維持・向上</li> <li>○市街地における公共交通空白地域や不便地域の解消と地域拠点との間を結ぶ公共交通サービスの充実</li> </ul>
④ 市街地の安全性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既成市街地における狭あい道路*や住宅密集地の解消</li> <li>○多様な災害に対応できる安心・安全な市街地環境の形成</li> </ul>
⑤ 都市経営の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共施設等の統廃合・長寿命化、既存ストックの有効活用等による財政負担軽減</li> <li>○都市機能や居住の集約化・高密度化による財政負担の軽減</li> </ul>



■ 図 2-1 都市づくりに向けた課題